

私が勝ちね（葉っぱジャンケン）



爽やかな青空のもと、もちあがりたので、急遽、「葉っぱじゃんけん」をして遊ぶことにしました。

「変わった形や色、虫食い、皆と違う葉っぱを一枚探しておいで」というと、一斉に林内を駆け回り、五分の制限時間をオーバーしながら一生懸命探していました。

「一番ギザギザが多いのは？」「一番たくさんかじられているのは？」と聞くと、自分の葉っぱを熱心に観察し「じゃんけんポン」で自分の取っておきを出し、皆と比べて喜んだり悔しがったり。

まだまだ何かしたいと集まってきてくれる子どもたちと最後は、マイ箸を作ることにしました。箸の形に

カットしたユスの木をサンドペーパーで磨いて滑らかな箸にしますが、最初は賑やかに磨いていた子どもたちも次第に「もうできた？」「持つところに絵を描いていい？」単純作業に飽きてきた様子。

何とか頑張ってオリジナルマイ箸が完成する頃には、堂ヶ森祭りもお開きの時間となりました。

「来年もまたここで会おうね。次のストラップの裏の日付は二〇一四・五・五だね。」

今年も地域の方々のお陰で笑顔溢れる楽しい堂ヶ森祭となりました。来年が楽しみです。

今回は、そのための体力養成・登山訓練及び、森林環境学習をしたいとの学校の意向を受けて実施しま

たび作成し、記念として並べて飾っているという嬉しい声も聞かれました。

今回は、「くまのストラップ」を完成させた子どもたちの中に、周囲の豊かな自然にとっても興味を示す子ども

「くまのストラップ」作りです。参加者の中からは、毎年の堂ヶ森祭に参加するたび作成し、記念として並べて飾っているという嬉しい声も聞かれました。

今回は、「くまのストラップ」作りです。参加者の中からは、毎年の堂ヶ森祭に参加するたび作成し、記念として並べて飾っているという嬉しい声も聞かれました。

五月五日子供の日、堂ヶ森の山頂（国有林、標高八五七m）で毎年恒例の「堂ヶ森祭」が開催されました。

五月五日子供の日、堂ヶ森の山頂（国有林、標高八五七m）で毎年恒例の「堂ヶ森祭」が開催されました。

五月五日子供の日、堂ヶ森の山頂（国有林、標高八五七m）で毎年恒例の「堂ヶ森祭」が開催されました。

五月一六日、高知県立四万十高校一年生八名を対象に、高知県と愛媛県の境にある八面山と滑床山（通称、さんぽんぐい）へ登山訓練を兼ねた森林環境教育を実施しました。



「今年も三本杭に登るぞ！」

高校生に森林環境教育

「ふれあいセンター」

「今年も三本杭に登るぞ！」

高校生に森林環境教育

「ふれあいセンター」

「今年も三本杭に登るぞ！」

高校生に森林環境教育

「ふれあいセンター」

樹木の説明



した。

当日の天候は、絶好の登山日和で山の空気を吸い込んで元気よく登山を開始しました。

登山道では、職員から樹木の名前や特徴、ニホンジカによる樹木の剥皮害についての説明を受けながら登って行きました。

ブナの群生林では、植生

が四国南西での限界地域で

あること、稜線を挟んで一つの山にありながら、温帯林の滑床側と暖帯林の黒尊側がある珍しい山であることなどを説明しました。

生徒からは、「木の種類

やシカの食害等について深く知ることができました。」

との感想があり、ふれあい

センターも学校の意向に沿

えることができました。



ニホンジカ食害防止ネット



四月二十八日、高知中部森林管理署、「三嶺の森をまもるみんなの会」（依光良三代表）、高知県、香美市、

香南市、南国市の六団体の

共催により、白髪山（標高一七六九m）山頂西側南面にニホンジカ食害防止ネット（防護柵）、カヤハゲ（標高一七二〇m）周辺に菰を使った表土の流出防止柵、

白髪山登山道中腹周辺でラス巻きを実施しました。

三嶺地区におけるニホンジカの被害は依然として広

い範囲で深刻な状態が続いていることから、ボランテアの協力を得て、被害の拡大防止のための活動を平成一九年から実施しており、今回が一八回目となります。

当日は「三嶺の森をまもるみんなの会」

の会員や地元香美市職員、

高知工科大学、高知大学の学生、一般参加者によるボランテアの協力と四国森林管理局及び当署職員を合わせた約一五〇名が参加しました。

参加者は一班に分かれて、一班から五班は白髪山

山頂西側南面に総延長五〇〇mの防護柵、六班から九

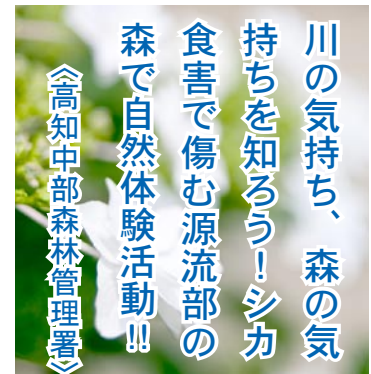
班が白髪山登山道中腹でラス巻きを行い、約二九〇本巻いてもらいました。一班は高知大学教授石川慎吾先生の指導で去年一〇月一四日カヤハゲ周辺に実施した菰張りの状況調査と新たな菰張りを行いました。一班は依光先生を中心に、防護柵の中に試験区域

を設け、ササの移植を行い

ました。

防護柵は、風等で倒れる恐れもあることから、今後は今回の参加者や一般の方々にも協力をいただきながら、設置後の状況を見守って行きたいと思います。

また、石川慎吾先生から菰張りの状況について話があり、菰による表土の流出防止は難しいかもしれない、今後は「土砂流出防止マット」の敷設も考えるべきとの指導がありました。今後もボランティア団体等のご協力をいただきながら、三嶺周辺の被害対策に努めたいと考えています。



五月一二日、一般募集、

ボランティア団体関係者、当署職員合せて約八〇名が参加し、ニホンジカの食害被害を受けている三嶺山系、「みやびの丘」(別府山国有林内)で、植生を回復させるため、シカ食害防備保護柵の中にササを移植しました。

この活動は当署と「三嶺の森をまもるみんなの会」、「物部川21世紀の森と水の会」、高知新聞社の共催により一般ボランティアを募

集し実施しました。

一般ボランティアの参加者はバス三台に分乗し、移動中、バスの中で、環境学習の一環として、DVD鑑賞、物部川流域の自然環境を観察しながら現地に到着後、当署署長をはじめ、関係者からのあいさつを受けました。

参加者は四班に分かれ、

「みやびの丘」へ向かう途中、団体関係者から、ニホンジカ食害状況について、説明を受けるとともに、ササを掘り取りました。

この間、団体関係者及び当署職員が先発隊として、みやびの丘でニホンジカ食害防備防護柵(周囲約一〇〇m)を設置しました。

参加者は「みやびの丘」

がありました。

一般参加者の中には、高知工科大の学生もおり、閉会式のときには、「私は関東出身であり、周りには自然が少なく、あまり、山の自然に接することがなかった。今回ボランティア活動に参加して、山の自然にふれることができた。また、

移動後、シカ食害防備防護柵の中にササを移植し、心地よい汗を流しました。移植終了後、「三嶺の森をまもるみんなの会」の依光良三代表から、白髪山周辺(国有林)の天然林の環境について、現状と問題点について説明

今後ボランティア団体の協力を得ながら、三嶺周辺のニホンジカ食害防備につとめていきたいと考えています。



ササの移植の様子